花の縁物語 全

京 特別 175

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

京
特別
175

東京圖書館
特別 | 京 | 一七五 | 一
類 | 函 | 架 | 冊

国立国会図書館　　タイトル『花の縁物語 2巻』　請求記号 京-175

ガラス使用

No 15091

花の縁物語

阿波國文庫
不忍文庫

世の人れ心まどうて事。家歌まゝ志ゝ深といふ
為うしてば。むへなれかな。家まそれ本たほき
氏。なふがしの守とやらせ乃此内ふ。なふのた
京とうやいひし。容女いとよくづぶふ般しく
ちと紙つくしゝ。いとまあ立されはとこなりを
まば。ちと人よりもとくとうにおぼし給ひ。
傍(カタハラ)ちくめされ給りくぞし比つゝ人なり。今
いとやいざよふ兎乃月のうほだせをぬさぬく
暁乃などり。雑まあくやうなるハぞふちりる

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175
ガラス使用

れの物よりそれをくぢるやなみ山よ物ゐ
らむしくなどうらつまもそれぱをこ
れもうきたうきつゝきの中はぺとさゝ
くへのまくぞようれをんどぺさゝうてぺと
ゐらんでうぺまごとをりうそ
なでやぱれぐぺよりくちもうそかひぱ
をもれうふへおくれぐぱご二八
みもたくねりぐみれぐぱ。行物のとこれあや

の衣引つくろひくぐうあめたまを
の袖。まだくらたきへとあいぼうはさぺま
一一か句ひくうりてぬくやうなうぱまぷん
うりうきとお糸かうふそそうりおやみそ
よこうちまぐひくぐぺをもこうこ面で
見とれうをうきぱぱぱ

まがきの。梅ふかもあまつ意者はづひとを
つきぬ七車のまくさめくりあふことをやと所さ
だめぐまどひありき。あふさきかさふこひも也
むまどをたゝひとりこゞるあまをぶひ乃ざか
りしていぶことをあらよりがをなそれぞ。むなし
くうゑれぬらま

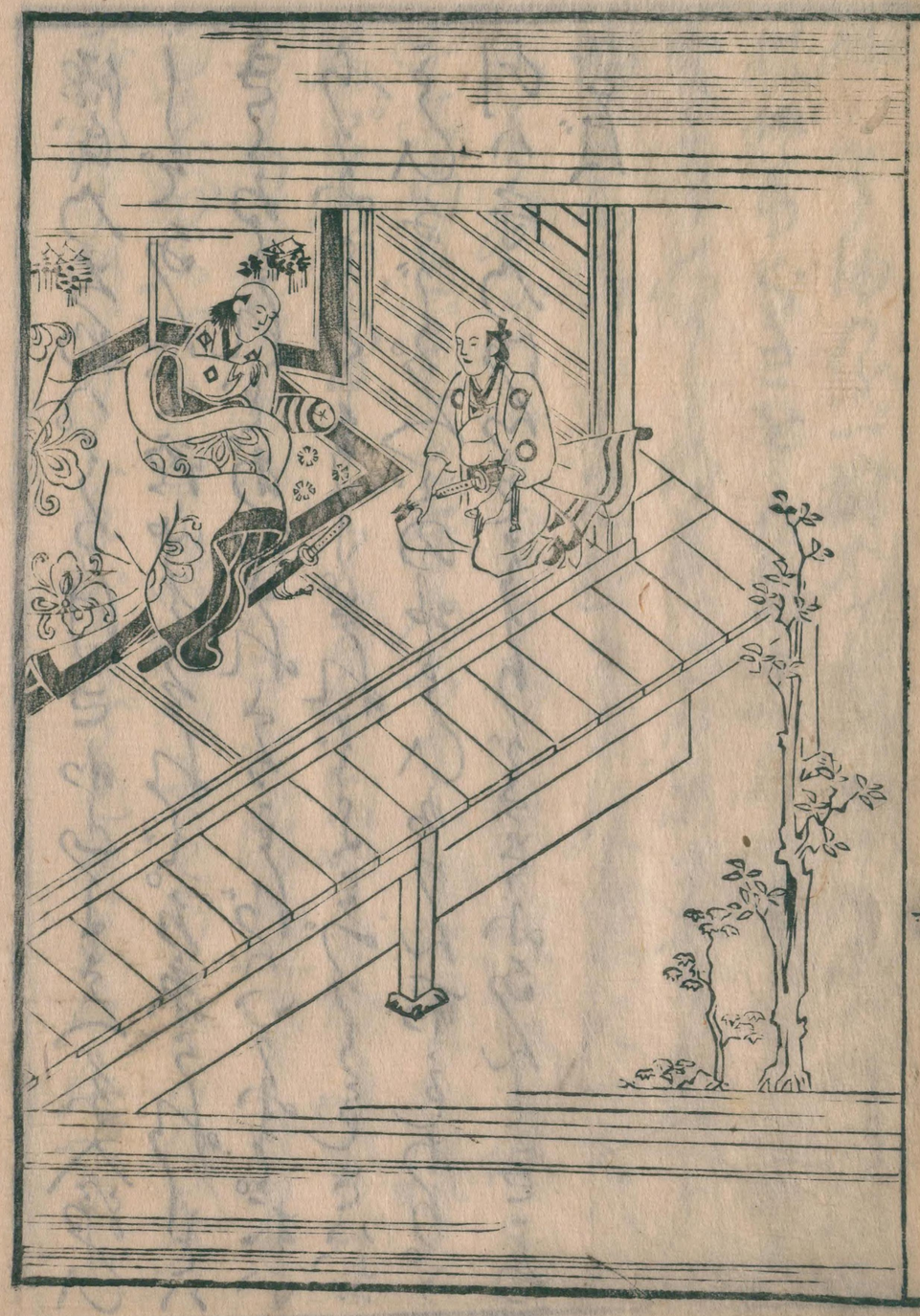
国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

住をこ面ぐ。一樹乃かぎれやどりに。一河の流れ
れ出あぐきをうれつゝ給ふ事をこそあれ
ぬ。そゝれし侍ましば。左京がふりとれもひ。
海よんなしと見ん極ることもよれ一定ハいい
ふこれなめりとうちゑゑ給ふ所に。時を
こそあれ。是を守乃しくたつるとれ分る
人。ゑゑひまうでゝ。なやこハいかゞ侍る。かくさら
こりしうる所にくゝ。ぬきを洗れいとゞ心を
むとがふれなむよ。いぱくにもあまさるべき方
屋ひとりして立ぬ心をもなぐさめ給へりし。

源氏乃大将ハ。なるけきかゝしまさへ分入給ひ
しぞなんど語ゆたそれば。左京うれしとハ
きゝゐれど。おいぐれさるまばハいかにぞ。だい
らうにもくなし。されどよこづうをさハおも
ひながら。人ごのゆもひなりん所をあり。う
川ハ守乃はんをもうりがたさにあんときこゐ
まば



いかぐわしくはおぼしてんやぷそれをとゞ
んとくぞれ面ゝ立ありぶ。ひとひ二日ありく。
又まうで来りぶ。あゝ面ゝ乃事ゝ守へゆゑ侍
まばぷいかゞも持こ乃ゑまゆゑを歴きよしと
れ給ひ侍るぞ。ちやく人をして歴ぶ。れ事
なんと少せ給へとぷいとむつましくかたらひ遊
くかそれバ。左衆より此事にぬもひぷ人なら
でハとサまるゝ心地して。見苦き物なんど
とりしてめ遊。供人独ゝてより伐ぐしてぶれ
よりぎふの宿へまうてそれだぶあるじいとゝく

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

ありしながらの心ばくしなかにくれとゆゑれば
世の中まざれりひしらぬなどにくなかにれて
ろふりれよかひもなくだぐ物ひまたりて
きるなしれ。とこなくしの霧形もげなかが
まがれのかどよこそれ出されこちして。いれ
としくうつくしなんどいふも物ろかまだ。左
京うつしんもなくなりて。日此のうされかぎ
とも。おふ秋の内にとかうらひ居るに。なかに
のつらさにかぶるやまかれといそぐ為れしぬぐ
寄志きりそれだ。よふ冬夜のまれもいかぐ

かれと。引まれぬるきぬぐの。袖のなこと
所をく。夏れさぐらまに立ゆりぬ。ぞれよりし
もたがひまうちけ。濃かくぬ中れちぎりれ
なりてよりくとひかりしぬる程に。やうく春
もくれぬ。ぞれがおふしれうつり行ハ世のなら
ひなれどいまはらかへうれ夜の月も立り
さなりてぐるやあげまのうへ物もしくにも
なりしかべ。ぞなんぐハ。ぬる里のつとになどいひ
くぐ。綿をかぎす花衣の。久めれあるゆ。
左京独なんぐ。しまれ抽物もひに。蚕所なさ

阿波國文庫

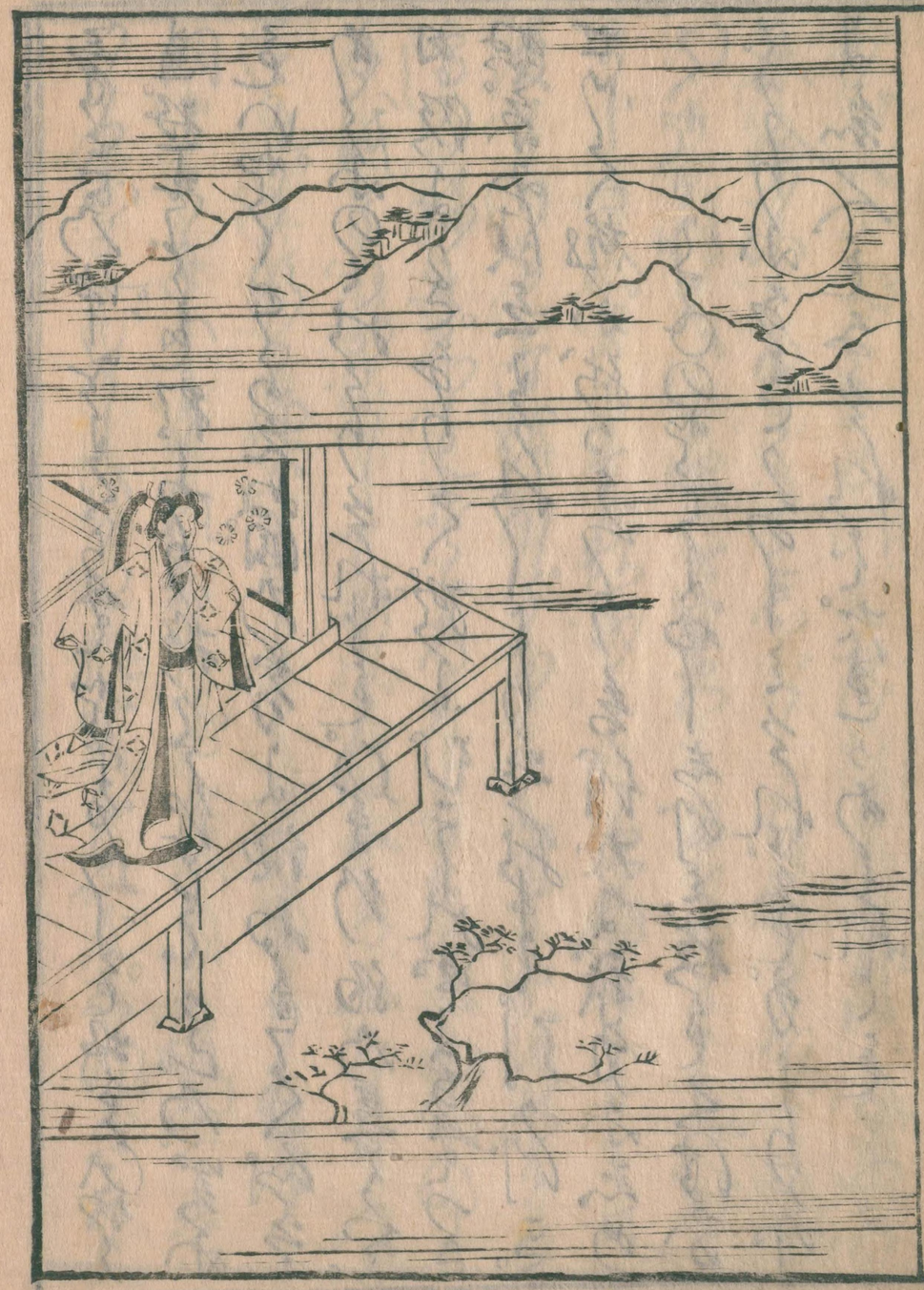
阿波國文庫

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』　請求記号 京-175

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

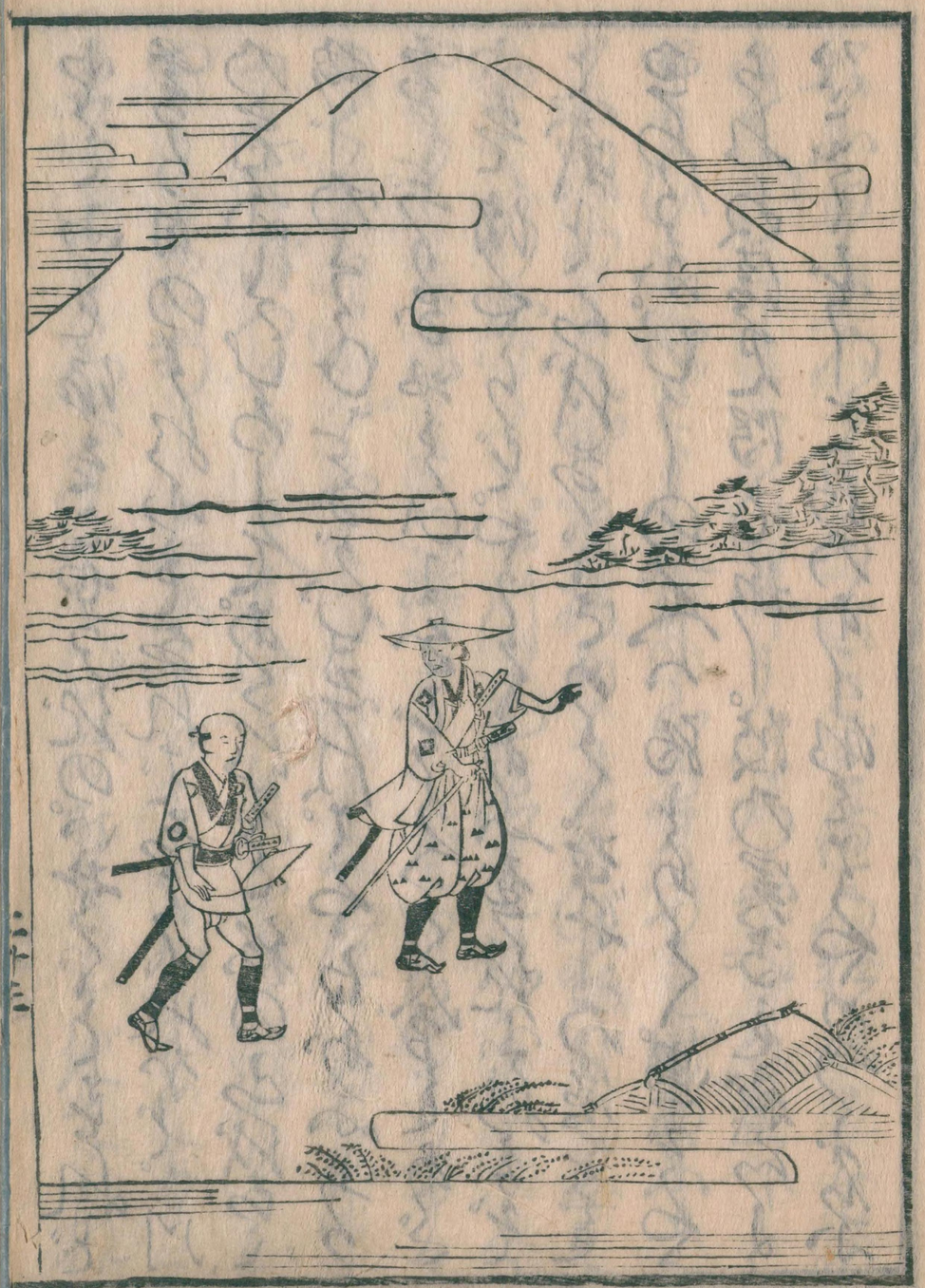
国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175
ガラス使用

ハやう乃事をそれとしくぐいそ紀二人の世やまぶ
ぎ出しそれだごとよなうあへめりしてぞれま
両様ようちよりつくぶりくもしくいかなるもの
恥ある覚ぶれ事を今までんふこめく
ふくめくしきる事れをろうさよぶれ事
ならば愛よよびむらへすいらせんよいと安か
なるしぶへしてハたがふ事もこそあまじ我あ
ぶまへくぶりてぐしまらんぞ志だしとしひ
て心をもなぐぶめてよかんどいひ無く想
を目よくぶりつくぶれとを所縁ぶ出りとめく。

あかいをよひ。だ京よたいめしてがうくれ事
侍るをばいかにあれとは花がしまる給ひ
ぎやさいふよりまづ間ふむさびそれだ。だ京
もゆるは砂絵ねらしてされだよ侍る事
侍しをよろげ世乃中の津西しさふぞろ
くいひあるすもかなたぐ。打過侍る程り。
ひくさへ頼さこそぶこよハ志らを侍らばりし
を。今弱孫来り給事れ帯しく姫をさこよ。
我もこやこを立別ごしよりかゝ時もまた
まさいらせる事ハ侍る孫ど。我も人もんよ

二十一

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175
ガラス使用

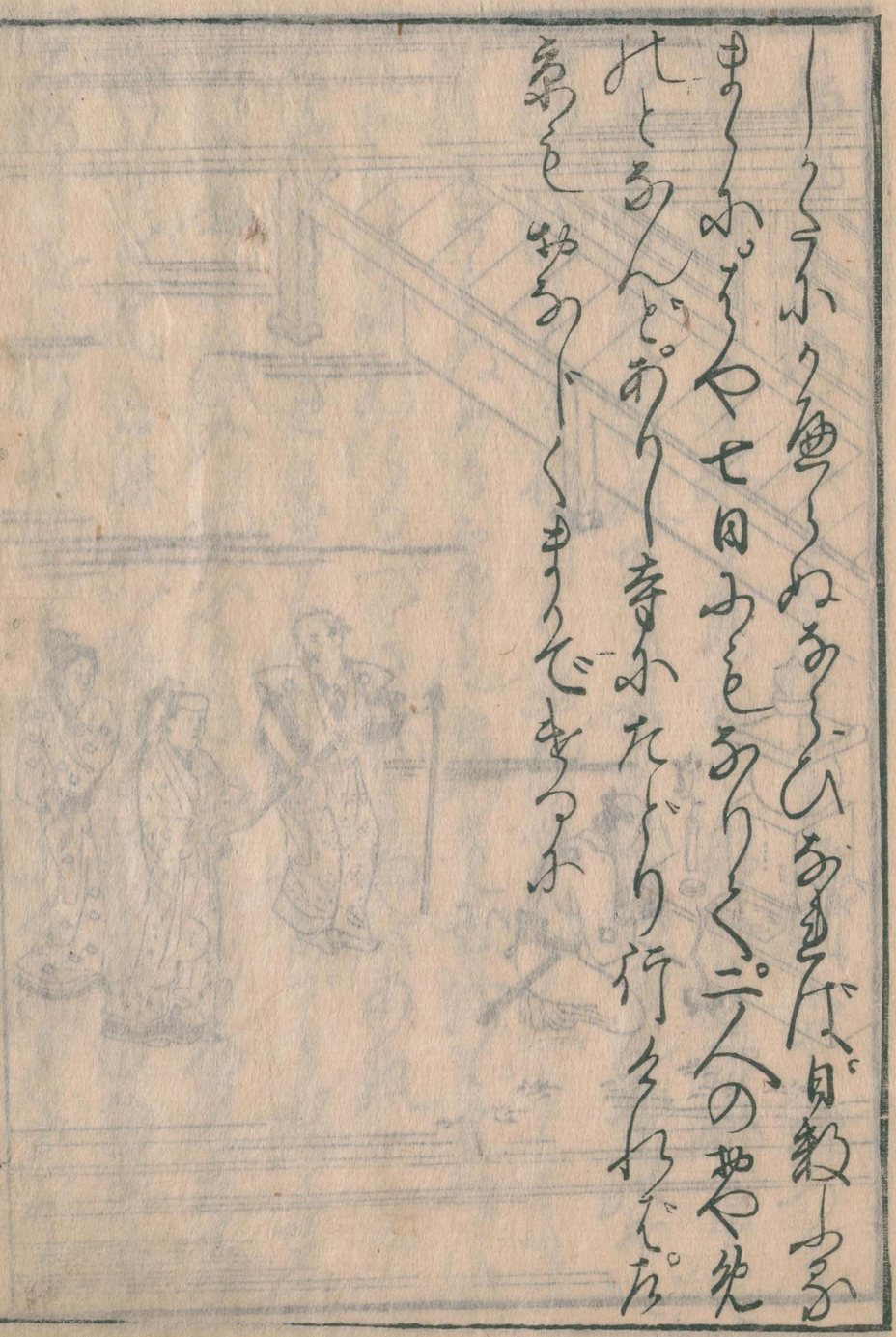


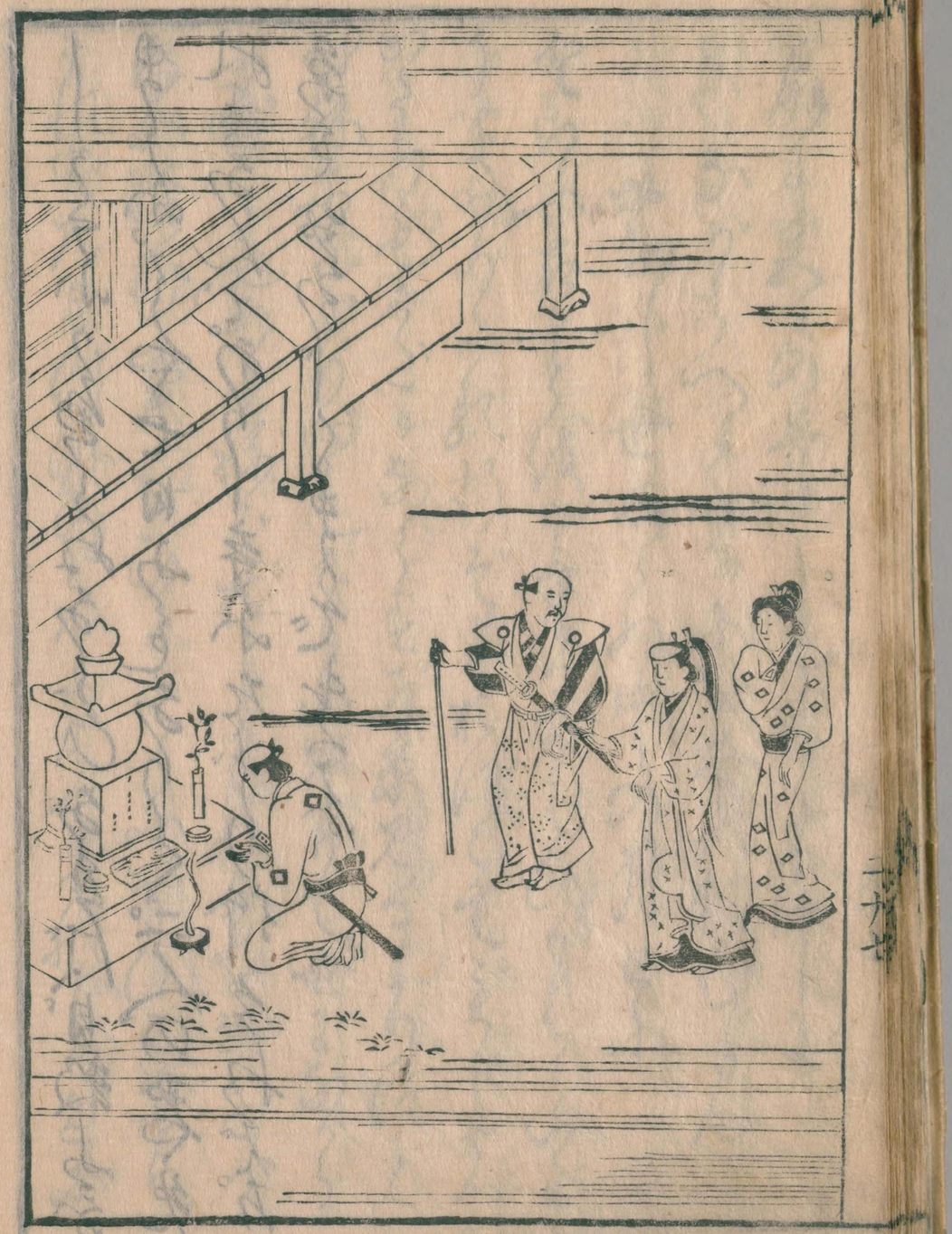
国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用





鳥部山の煙をうれとまう祢どいとむつまし
くぞおぼしめし霧あたれとうるにつきて
を。君がおとりの事ははひ消なん命のなど。
中くいはれしくせばとて
きとねめる雲も霧をむげくまん
よにおとるべきものやはあれ
くどくしき事は人まとへながらぞたとへ
なるものもひのやなかさまいあるなる
面しぞて三昧乃うとは行ふぞむなしき
志るしをうるにをぞ。まぶ泪にくれてぞ。

ハ物をわぼくさせ。やゝありて香花あむ意
なんどし心志けりは孫んぞし終りて。いま
しる人は物ぞきこゆれやうよ。さてをいまた
だしの命をまたそ。世をまたやうし給しる
れうさてさよ。いかだうりか我をつくしぬ
おぼしつくん。だゞなにおとをんまゝせぬ
うれ事乃ゆどゝにこの世れえにしこそ
うまくとをこん世ハかなしぞ同し蓮のうて
なにと。おもふをあまりつゝふかれ心まよひ
とはさがむる人をあるべかれと。よしやよし

無明塵労即是菩提無集可断生死即涅
槃無滅可證とあれ圓頓止観の秘文を
心乃中に修じて。ひそかに腰の刀を抜そ
だめ。心もとぼさし無し。そまゝ墓により
かゝりて。宗しくなりそれぞ。人をとゞろき
さいぎて。花をとるに。常孫をほしきたぐへ
れあけにたりて。つやゝかなりし。ぬぬ法しか
かゝり行かれバ。二人の親ハ。ひめがなげきに
又えうき孫つく。どもやまの法をあやうれまぞ
ま。ぞきかなしミかれどもかひなくしてそれ

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175
ガラス使用

京 特別 175

阿波國文庫

寛文六丙午年三月上旬書写

器之子

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

京
特別
175

国立国会図書館　タイトル『花の縁物語 2巻』 請求記号 京-175

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『花の縁物語 2巻』　請求記号 京-175

ガラス使用